

体育科学習指導案

授業 I

2年1組 27名 指導者 西山 修平

本授業は、以下の検証を行うものである。

教師が声掛けを工夫し、子供が自分のアドバイスで友達を「支える」ことにつながっているという自覚をもち、互いにアドバイスし合うことは、アドバイスの質を高め、よりそのものになりきって踊ることができたという喜びを実感する（「成功体験」を味わう）手立てとして有効であったか。

1 単 元 わくわく どうぶつランドへ レッツ・ゴー！ 「表現リズム遊び」

2 目 標

それぞれの動物の特徴を捉え、動きを工夫して全身で踊ることができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊っている。	○ 動物の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達につたえている。	○ 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲良く踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。

4 単元について

(1) 単元について

表現リズム遊びは、身近な題材の特徴を捉えてそのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びであるとともに、友達と様々な動きを見付けて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。

さらに、子供にとって表現リズム遊びは、自由に空想の世界に入ることができ、変身する楽しさを味わうことができる運動である。しかし、題材の特徴を捉えることができずにどう踊ったらよいか分からなかったり、人前で動くことが恥ずかしかったりするために、楽しさを味わうことができないこともある。そのため、心と体をほぐす準備運動を取り入れたり、全身で特徴を捉えている友達の動きを見合ったりする等の工夫をする必要がある。

本単元での運動経験は、題材の特徴を捉えた多様な感じを表現することと全身でリズムに乗って踊ることを通して、仲間と関わり合いながら即興的に踊る、中学年「表現運動」の学習へと発展していく。

(2) 子供について

本学級の子供は、運動好きな子供が多く、体育科の授業だけでなく、外で元気よく遊んでいる。表現リズム遊びに関しては、題材になりきって踊ることが楽しい、踊ると体も心も気持ちいいという子供がいる一方で、恥ずかしかったり、リズムに乗って踊ることが難しかったりするために、表現リズム遊びに対して苦手意識をもっている子供もいる。

そこで、本単元では、苦手意識をもっている子供も運動の楽しさを十分に味わい、学習に主体的にとりくむ「学びに向かう力」を育むことができるようにする。

(3) 指導について

本単元では、それぞれの動物の特徴を捉え、動きを工夫して全身で踊ることができるようにすることをねらいとしている。

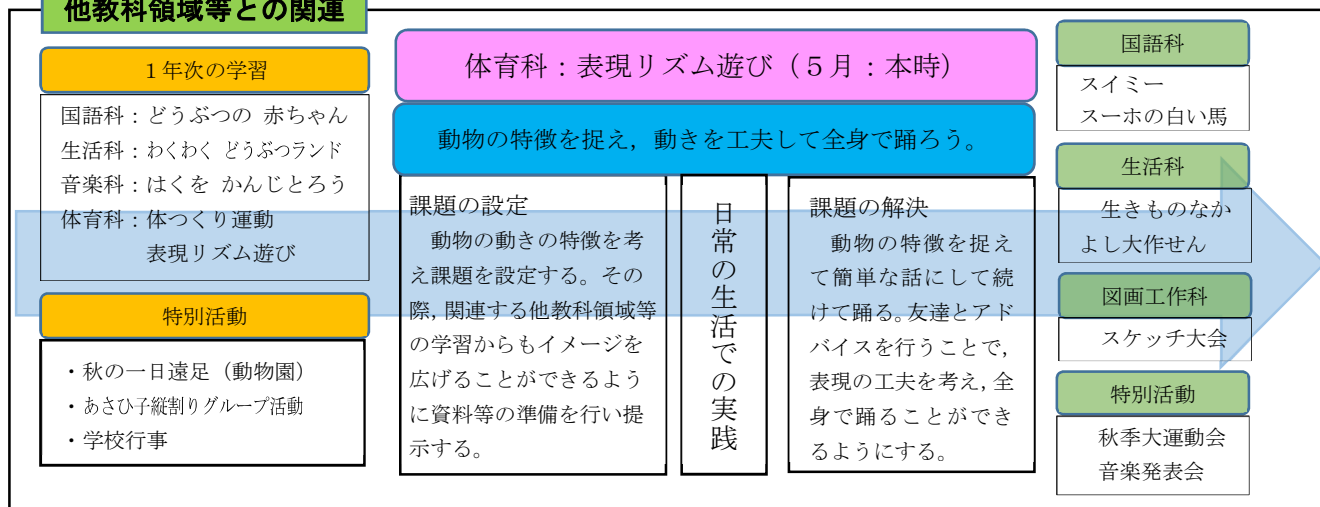
カリキュラムを作成する際には、学校行事や他教科等との関連を図ることで、より深い学びを実現できるようにする。1年生の動物に関連する学習を想起することで、動物の特徴を自由に出し合うことができるようにする。課題解決においては、フォロータイムを設定し、お互いに動きを見合って、動き方の工夫についてアドバイスをすることで、よりそのものになりきって全身で踊ることができるようにする。また、単元末の発表会に向けて体育の時間以外にもできることを紹介したり、日常での生活の実践に取り組んでいる子供を称賛したりすることで意欲を継続させて学習に取り組む「学びに向かう力」を育むことができるようにする。

5 指導計画（総時数 5 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力																							
			言語	情報	問題																					
一次	1 オリエンテーション ・ 表現リズム遊びの目標や学習計画を知る。 【態：運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲良く踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。】	1			ホ																					
二次	2～4 それぞれの動物の特徴を捉え、動きを工夫して全身で踊る。 <table border="1"><tr><td>2</td><td>3</td><td>4（本時）</td></tr><tr><td colspan="3">【スキルタイム】準備運動・即興的な表現</td></tr><tr><td colspan="3">【めあての確認】課題に応じためあてを立てる。</td></tr><tr><td>一人で踊る</td><td colspan="2">グループ練習Ⅰ</td></tr><tr><td colspan="3">フォロータイム</td></tr><tr><td>友達のよい動きをまねして踊る。</td><td colspan="2">グループ練習Ⅱ</td></tr><tr><td colspan="3">【振り返り】アドバイスの視点を中心に</td></tr></table> (ねらい1) 動物の特徴を捉えて、そのものになりきって即興的に踊る。 (ねらい2) 動きの中に急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊る。 【思：動物の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。】	2	3	4（本時）	【スキルタイム】準備運動・即興的な表現			【めあての確認】課題に応じためあてを立てる。			一人で踊る	グループ練習Ⅰ		フォロータイム			友達のよい動きをまねして踊る。	グループ練習Ⅱ		【振り返り】アドバイスの視点を中心に			3	ケ	ハ	ホ
2	3	4（本時）																								
【スキルタイム】準備運動・即興的な表現																										
【めあての確認】課題に応じためあてを立てる。																										
一人で踊る	グループ練習Ⅰ																									
フォロータイム																										
友達のよい動きをまねして踊る。	グループ練習Ⅱ																									
【振り返り】アドバイスの視点を中心に																										
三次	5 発表会をする。 ・ 急変する場面を入れて、簡単な話にして友達と楽しく踊る。 【知：運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊っている。】	1	タ																							

他教科領域等との関連



6 本 時（4／5）

(1) 目 標

動きの中に急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊ることができるようにする。

(2) 評価規準

動物の特徴を捉えて、動きを工夫して踊っている。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、カードをめくって出た題材に合わせて即興的に踊ることを取り入れることで、楽しさを感じ、体と心をほぐすことができるようにする。挑戦する過程では、話の中に急変する場面を入れて踊ることで、変化が生まれ、楽しさが増すことを理解し、グループで簡単な話にして続けて踊ることができるようにする。その際、フォロータイムを設定し、きょうだいグループの踊りを見合い、アドバイスすることで、よりよい動きを考えることができるようにする。振り返りの過程では、友達からのアドバイスが自分にどのように生かされたか振り返りを行い、全体で共有することで、成功体験を共有し、次時への意欲を継続することができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	8	1 スキルタイム（準備運動を含む。） ・ 体も心も準備ができたよ。 ・ 友達と一緒にいろいろな動物に変身すると楽しいな。 2 本時のねらいを知り、活動のめあてをもつ。 お話を楽しくするにはどんな場面を入れたらよいのだろうか。 ・ 池に落ちたらおもしろそうだな。 ・ 友達はどんな話を作るのかな。 3 グループで話し合い、簡単な話を決める。	○ ストレッチや体ほぐし運動を取り入れることで、体や心をほぐすことができるようにする。 ○ スキルタイムでは、カードをめくって出た題材や教師が提示したものを即興的な踊ることで、グループでの活動に生かすことができるようにする。 ○ 体育黒板を活用することで、本時の学習のめあてや活動を確認することができるようにする。 ○ 体育黒板に動物の写真や話の例を提示することで、話し合う際に参考になるようにする。
挑戦する	30	・ どんな話にしようか。 ・ さるが木から落ちる場面を入れたらどうか。 4 グループで踊る。 ・ 落ちているように見えるかな。 ・ ちょっと一人踊るところを外から見ようよ。 5 楽しいお話が伝わる踊りになるようにきょうだいグループでアドバイスし合う。 (1) Aグループが踊る。 (2) BグループはAグループにアドバイスする。 ・ 木から落ちる様子がよく伝わってきたよ。 ・ もっとおおげさに痛がったらおもしろくなると思うよ。ぼくがやってみるから見ていてね。 (3) Bグループが踊る。 (4) AグループはBグループにアドバイスする。 6 アドバイスを基に工夫して踊る。 ・ おしりに手を当てて跳びはねてみよう。 ・ 顔も痛がるといいかな。 7 整理運動を行う。	(協) グループでの活動を取り入れることで、多様な友達の考えを大切にし、協力して課題を解決することができるようにする。 ○ グループ内のフォロータイムは時間を設定せず、いつでも自由に行うことで、自分たちの踊りを客観的に見て、よりよく変えていくことができるようにする。 ○ 教師が声掛けを工夫して行うことで、自分の立場を意識して友達により点と改善点をアドバイスすることができるようにする。 ○ 実際に動きながらアドバイスすることで、相手が具体的に動きをイメージすることができるようにする。 ○ きょうだいグループからどんなアドバイスをもらい、どこを工夫したか意識して練習することで、以前の動きと比べ、良くなった点を実感することができるようにする。 ※ 動物の特徴を捉えて、動きを工夫して踊っている。（発言・観察） 【思考・判断】
振り返る	7	8 本時の学習の振り返りをする。 ・ 友達のアドバイスのお陰で木から落ちた後の動きを工夫できました。 ・ 発表会に向けて家でも練習してきました。 9 協力して安全に後片付けをする。	○ アドバイスの視点から本時を振り返ることで、支え合って学習することのよさに気付くことができるようにする。 ○ 発表会に向けて家庭で取り組みたいことを考えさせることで、学習を生活へつなげ、意欲を継続することができるようにする。

体育科（保健）学習指導略案

授業Ⅱ

5年2組 32名 指導者 濱田 博史
基永 恵

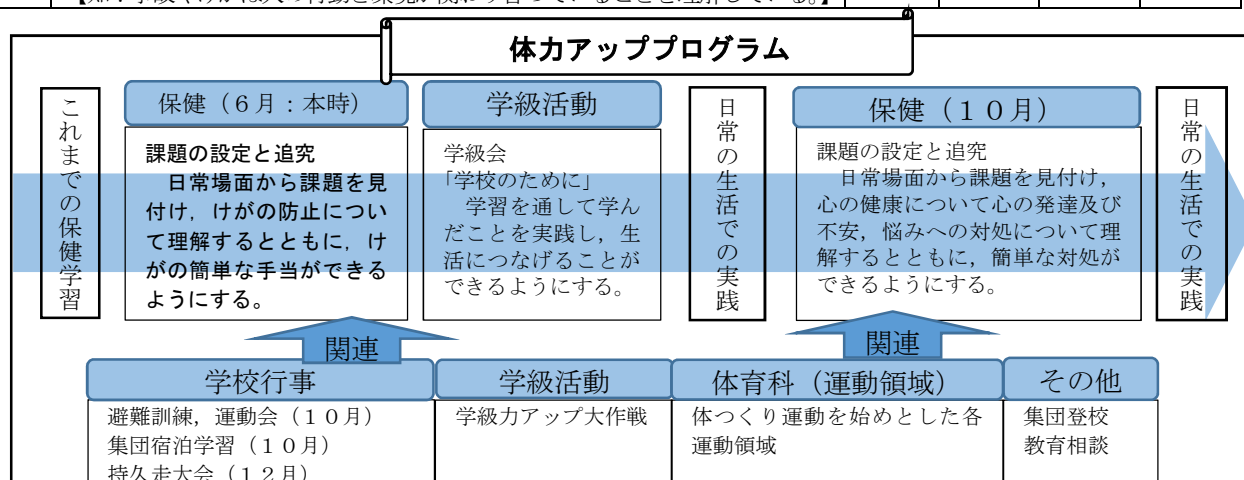
本授業は、以下の検証を行うものである。
校内のけがの実態を基に課題を見つけ、解決に向けて話し合うことは、子供が協働的に学び合ったり、学習したことを生活に生かそうとしたりする「学びに向かう力」を高める手立てとして有効であったか。

1 単 元 けがの防止

2 指導計画（総時数6時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

次	主な学習活動	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
1	1 身近なけがを想起し、事故やけがは、人の行動と周りの環境が関わって起きていることを理解する。 【知：事故やけがは人の行動と環境が関わっていることを理解している。】	1	カ		
	2 学校で起こるけがを防止するには、安全に行動することや、環境を安全に整えることが必要であることを理解する。 【思：けがを防止するための対策を、人の行動や環境の面から考えている。】	1 (本時)	ケ		
	3 交通事故も行動と環境が原因であることを理解し、どうしたら交通事故を防げるかを話し合う。 【関：道路標示等の役割を理解し、事故防止に役立てようとしている。】	1		ヌ	
	4 犯罪被害の防止について話し合い、危険を回避する行動や危険な環境の改善について考える。 【思：安全な場所にするための環境とこうどうについて考えている。】	1		ヌ	
	5 自然災害によるけがの防止について、安全に行動することや日頃からの備えについて理解する。 【知：自然災害のけがを防止するための行動や備えを理解している。】	1		ネ	
	6 けがをしたときの対応や処置について理解し、具体的な手当の手法を知り、簡単な手当ができるようにする。 【知：事故やけがは人の行動と環境が関わっていることを理解している。】	1	タ		



3 本 時（2／6）

(1) 目 標

学校で起こるけがの防止は、安全に行動することや、環境を整える必要があることを理解し、事故防止の方法について考えることができるようにする。

(2) 評価規準

学校で起こるけがを防止するための対策を、人の行動や環境の面から考えることができる。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

導入では、前時で使用した「校内のけがマップ」等を再確認することで、校内でのけがを防止するという課題につなげることができるようにする。

展開では、校内三か所でのけがの原因について考えさせ、防止策を話し合う。その際、ICT機器等を用いながら、ジグソー学習を取り入れ、話し合ったことを学習グループに戻って伝える

ことで、短時間で多くの情報を手に入れることができるようにする。

終末では、安全点検や施設の修繕などの様子を養護教諭が説明することで、けがの防止のために安全に環境を整えていることを理解できるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 前時までの学習を振り返る。 (・ 事故が起こる原因は人の行動や環境が関わっていたな。 ・ 人の行動は具合が悪いときや心の調子も影響するんだっとな。 2 校内のけがの発生状況について確認する。 (・ 田上小でもたくさんのけがが起こっているんだっとな。 ・ 昼休みに校庭を確認したら危ない場面がたくさんあったよ。 3 学習のめあてを確かめる。 田上小のけがを減らすにはどうすればいいだろう。	○ 前時の学習を振り返ることで、事故やけがは「人の行動」と「環境」が要因であることを想起させることができるようにする。 ○ 前時までの学習で提示した「校内のけがマップ」を確認したり、事前に昼休みの校内の様子を観察したりすることで、自分たちの身近な課題に気づき、解決しようとする意欲を高めることができるようにする。
調べる	35	4 課題(けがの発生しやすい場所)別のグループでけがの原因や、防止策についてについて話し合う。 (ジグソー学習: エキスパート活動) [A 教室 B 廊下, 階段 C 校庭] [A 教室を走ってとび出してぶつかることがあるから歩かないといけなね。 [B 掃除の後に廊下がぬれていてすべったことがあるからしっかり拭かないと。 [C 鬼ごっこで遊んではいけない場所を逃げて転んでしまった子がいるから、ルールを守らないといけなね。 5 学習グループに戻り、話し合ったことを他のメンバーに紹介する。 (ジグソー学習: ジグソー活動) その後、けがを防止するために必要なことをまとめる。 (・ どの場所も、自分たちが気を付ければ防止できるけがも多いな。 ・ 道具を整理したり、修理したりすることも大切だね。	問 ジグソー学習を取り入れることで、短時間で多くの情報を得ることができるようにする。 ○ 課題別グループで話し合ったことを学習グループに伝えるという目的意識をもつことで、主体的に学ぼうとする意欲を高めることができるようにする。 ○ ICT機器を活用することで、校内の写真を学級全体で共有しながら話し合うことができるようにする。 ※ 学校で起こるけがを防止するための対策を、人の行動や環境の面から考えている。 (発言・ワークシート) 【思考・判断・表現】 ○ 課題別グループで話し合ったことを見える図等にまとめることで、相手に分かりやすく伝えることができるようにする。
まとめる・振り返る	5	6 養護教諭の話を聞き、学校での環境整備等について理解を深める。 (・ 学校でも、点検をして安全にすごせるようにしているんだな。 7 学習グループの考えを全体で共有し、学習のまとめをする。 けがを防止するには、安全な行動と環境を安全に整えることが必要である。 8 今後の学習の見通しをもつ。	○ 養護教諭が安全点検や修繕について説明することで、学校内でのけがの防止の取組を理解することができるようにする。 ○ 学級活動との関連を図ることで、学んだことを実践し、日常生活につなげようという意欲を高めることができるようにする。